



## ワシントン条約の会議が開催されました。

今年2007年6月3～15日に、第14回ワシントン条約締約国会議がオランダのハーグで開催されました。トラフィック イーストアジア ジャパンは締約国会議に向けて数回のシリーズでワシントン条約関連情報を各マスメディア関係者の方々に配信しています。会議に関する正確な情報の入手や取材の参考としてお役にしてください。また、ご不明な点や詳細に関してはトラフィックまでお問い合わせください。

## 木材として利用される植物の改正提案

今回の附属書改正提案では、植物に関する附属書への掲載も提案されました。以下の樹種はいずれも中南米に生育し、木材として珍重され、いわゆる銘木と呼ばれるような樹種です。今回の会議では、生息国と提案国との意見の相違などで、撤回された提案も多いものの、今後継続的に注目すべき樹種の候補といえます。

ブラジルボク *Caesalpinia echinata* (マメ科)

-ブラジルの国名のもとになった象徴的な樹種。

- 生育地：ブラジル（固有種）
- おもな用途：バイオリンなどの弓の材料など

## 日本での利用

高級な楽器の弓の材料として使われる。他にペン軸や高級雑貨にも用いられている。

ブラジルから附属書Ⅱへの掲載提案

結果：附属書Ⅱへの掲載が承認された

ツルサイカチ属 *Dalbergia* (マメ科)  
(ローズウッド、シタンなどが属する属)のなかの3種*D. retusa*、*D. granadillo*

- 2種は、ともにココボロとよばれ、ブラジリアンローズウッド *D. nigra* が入手困難になってから代替品として用いられる可能性が指摘されている。
- この2種の識別は難しい。

- 生育地：メキシコからパナマ
- おもな用途：楽器の材料

ホンジュラスローズウッド *D. stevensonii*

- 野生での生育個体数や、国際的な取引の状況はまだよくわかっていない。
- 生育地：ベリーズ、メキシコ、グアテマラ
- 主な用途：楽器の材料

## 日本での利用

- この属の木材は、赤色、赤紫色、紫色など心材の色が縞になって材面が美しく高価なことから、楽器、高級家具や内装、器具の柄などに使われる。
- *D. retusa*：ギターなどの楽器材、宝石箱などに用いられる。
- ホンジュラスローズウッド：楽器のマリンバを作るのにも用いられている。

## 日本の輸入

種別に輸入状況を知ることはできないが、同属のブラジリアンローズウッド *D. nigra* (すでに附属書Ⅰに掲載)の輸入実績をみると主に木彫品、あるいは一部ベニヤや木材としても輸入されている。

ドイツがEUを代表して、附属書Ⅱへの掲載を提案

結果：提案を撤回

チャンチン属全種 *Cedrela* spp. (センダン科)

- すでに附属書Ⅲに掲載されたスパニッシュシーダー *Cedrela odorata* の属する属。提案には、この属の7種\*について言及されている。
- 同属の種同士の識別は困難
- スパニッシュシーダー：葉巻の箱によく用いられていた。杉のような香りのためにこの呼び名がついたといわれている。

- 生育地：中南米に広く分布
- おもな用途：建材や木工品など

\*対象種 *Cedrela fissilis* / *Cedrela lilloi*  
*Cedrela montana* / *Cedrela oaxacensis*  
*Cedrela odorata* / *Cedrela salvadrensis*  
*Cedrela tonduzii*

## チャンチン属の木材の利用について

スパニッシュシーダーは、建築、キャビネット、彫刻、ベニヤなどの用途が知られており日本へも附属書Ⅲ掲載種の取引として裁断材やベニヤとしての輸入が記録されている。



© WWF-Canon / James FRANKHAM

ただし、2002年、2003年と比較して、2004年、2005年の輸入はほとんどない。

ドイツがEUを代表して、附属書Ⅱへの掲載を提案

結果：生育国の同意を得られず提案を撤回

## たとえば、こんな楽器にも銘木が使われているかも

日本の楽器類の輸入は、  
弓で弾くもの（バイオリンやピオラ、チェロ、コントラバスなど）  
：3万～4万台/年  
ギター：20万～30万台/年  
(2000-2006年、財務省、貿易統計)

ただし、木材の種別に統計がとられていないので、どんな樹種が利用されているかは特定できない。



トラフィックジャパンの  
ここに注目  
木材種も野生生物です。